

解決志向アプローチのための事例データベース作成の試み

相模 健人 (教育学部教育心理学教室)

山内 加奈子 (県立中央病院)

池田 歩美 (教育学部附属教育実践総合センター)

(平成17年6月3日受理)

The study of developing a new computerized database for marshaling clients' verbal transcripts from an interview with solution -focused-Approach

Takehito Sagami, Kanako Yamauchi, Ayumi Ikeda

I.はじめに

臨床心理士の行う心理相談活動において、事例記録は重要である。記録の形式、内容もさることながら、個人情報保護の観点から保管にも注意を要する。近年では医療現場において、電子カルテの試み、実践が行われているが、心理臨床の現場においても亀口(1997)など、臨床事例をデータベース化して管理する試みがなされている。

本稿ではBerg,I.K.,De Shazer,S.らが創始した解決志向アプローチ(Solution-Focused-Approach)のための事例データベースを作成し、その紹介、そして、それをもとにした研究の展望を述べることを、その目的とする。

なお、この事例データベースは最終版ではなく、今後、必要に応じてバージョンアップが行われることを明記しておく。また、本稿の中で出てくる事例情報は全て架空のものであり、実際の事例情報ではないことをお断りしておく。

II.事例データベースについて

1. 動作環境

今回、事例データベースはMicrosoft Access 2000を用いて作成した。OSについてはWindows 2000,XPにおいて動作することが確認されている。また、個人情報保護のため、インターネット環境にないパソコンで動作することが望ましい。

2. 事例データベースの詳細

① パスワード認証

事例データベースを起動すると、まず図1のようにパスワード認証画面が起動する。これはもちろん、プライ

バシー保護のためのものである。管理者が設定し、定期的にパスワード変更を行うことが求められる。

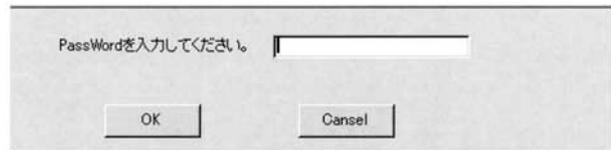


図1 事例データベースのパスワード認証画面

②面接情報管理

パスワード認証が正常に行われると、図2のように「面接情報管理」画面が現れる。現在は「面接記録」、「集計」、「検索」、「技法集計」、「クロス集計」に分かれている。右下には「現在のCase Count」として、現在の事例登録数が載っている。

③面接記録画面

「面接記録」にはケース記録を入力できるようになっており、各回の面接を記録する「各回面接記録」、最終回の面接を記録する「最終回面接記録」、事例自体の情報と最終後の状態を記録する「事例記録」に分かれている(図2)。

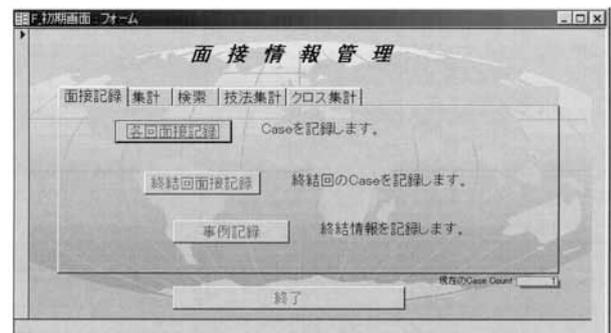


図2 事例データベースの面接情報管理画面 (Basic)

③-1 各回面接記録

「各回面接記録」を選択すると、図3のように表示され



図3 各回面接記録の管理画面

る。画面左上にはケースごとの連番、管理番号、面接回数、面接日を打ち込む。画面右上の事例情報、ID、入力日は自動で表示され、この番号をもとに後述する事例検索が可能である。

画面中央にはクライアント本人の氏名、性別、その左下には面接参加者が6名まで記録できるようにした。解決志向アプローチではクライアントが個人のみでなく、家族など複数のクライアントが参加することもある。また、グループセラピーにも対応できるようにするため、この形式にした。その右横には面接内でのメッセージを記録できる。解決志向アプローチでは面接の最後に伝えるメッセージが、面接のその回の要約ともなっているため、面接概要の理解を兼ねて、記録できるようにした。3つに分かれているのはMicrosoft Access 2000では1セルに256文字しか記録できないため、便宜上、分割した。

画面下には解決志向アプローチで用いる技法を記録する。これにより、面接各回における技法の使用状況が分かる。

画面最下部左の「新規Excel Data」、「登録Excel Data」があり、逐語記録をMicrosoft Excelのファイルで閲覧できるようになっている。右には「事例の継続・終結」を記録でき、「終結事例」を選択すると、図4の「事例記録」が表示され、事例自体のデータが記録できる。なお、「終結回事例記録」は終結回の内容について記録するものであり、記録内容はこれと同様である。

③-2 事例記録

事例自体の記録は図4～6の「事例記録」に記載する。詳細を見ていこう。図4の「事例記録」の個人情報1では、相談者の個人情報を記録する。なお、この図4の画面の情報に関しては、当大学心理教育相談室の相談記録用紙に即して作成しているので、若干、解決志向アプローチの考えとは異なる部分があることをお断りしてお

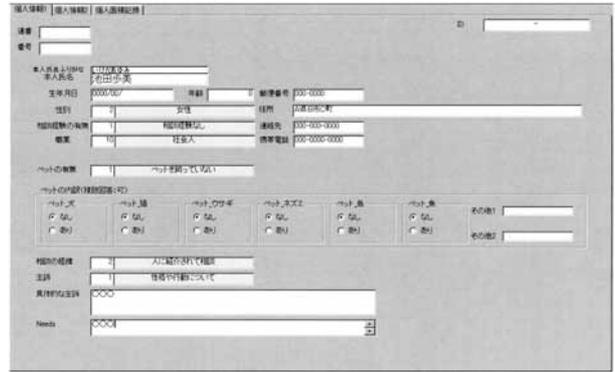


図4 事例記録の個人情報1の画面例

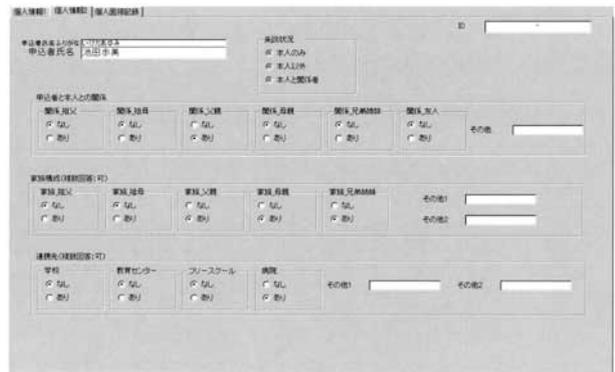


図5 終結記録の個人情報2の画面例



図6 終結記録の個人面接記録の画面例

く。

画面上部の「連番」、「番号」、「CL_ID」等は前述の事例記録と共通のものである。画面中央にはクライアント本人の情報、「ペットの有無」を記録する。ペットは資源となりうることも多いことから記録を設けた。

画面下部には「相談の経緯」、「主訴」を類型化して記録し、その下に「具体的な主訴」と解決志向アプローチで実際の面接目標となる「Needs」について記録する。

図5の個人情報では、「来談状況」、申込者が保護者な

ど本人ではない場合の「申込者と本人の関係」、「家族構成」、「連携先」について記録する。図6の「個人面接記録」には「相談開始日」、「相談終了日」、「面接回数」、「相談場所」、集計のための「相談内容」、「終了時の状態」などの終了時の情報、フォローアップについて記録する。

現在のところ、本事例データベースでは、以上のように事例に関する情報を記録できるようデザインしている。

④各種集計について

ここからは「面接記録」での事例情報をもとにした集計となる。

④-1 「集計」画面

図7が「集計」の画面であり、「児童事例集計」、「教師事例集計」、「一般事例集計」に分かれている。これは当大学心理教育相談室の相談件数報告のために作成している。個人面接記録の「相談内容」をもとに、図8~10のような結果を出すことが可能である。

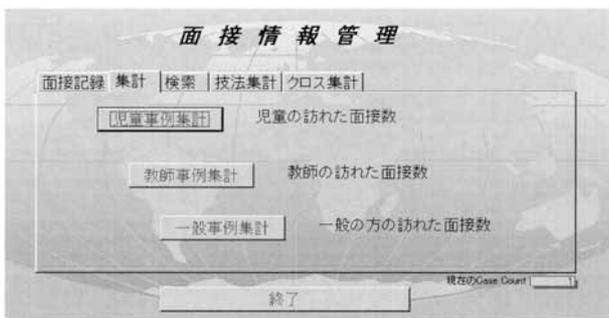


図7 事例データベースの面接情報管理画面 (Count)

児童	事例情報のカウント
不登校(いじめを含まない)	4
いじめ	2
神経性習慣	1
摂食障害	2
神経症	3
情緒障害全般	4
知的障害	2
発達障害全般	1
非行	2
薬物依存	2
	2

図8 児童Countの画面例

教師	事例情報のカウント
人間関係	6
職務に関すること	2
	3

図9 教師Countの画面例

一般	事例情報のカウント
仕事	4
対人関係	2
精神疾患	4
家庭生活	2
	1

図10 一般Countの画面例



図11 事例データベースの面接情報管理画面 (Refer)

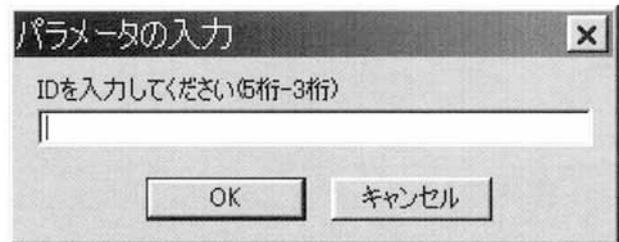


図12 ID検索の画面

④-2 「検索」画面

図8の「検索」では事例情報を検索することが可能である。各回面接と終結事例について分かれ、それぞれ「ID」（各面接のID番号による検索）、「名前」（相談者氏名による検索）、「日付」（面接日による検索）、「期間検索」（期間を設定しての検索）といった詳細な検索が行える。入力は図12のような検索画面によって行う。

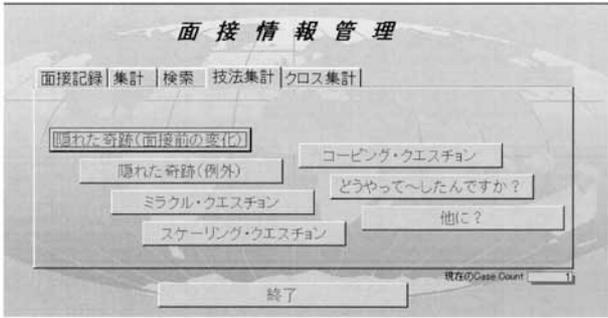


図13 事例データベースの面接情報管理画面 (技法Count)

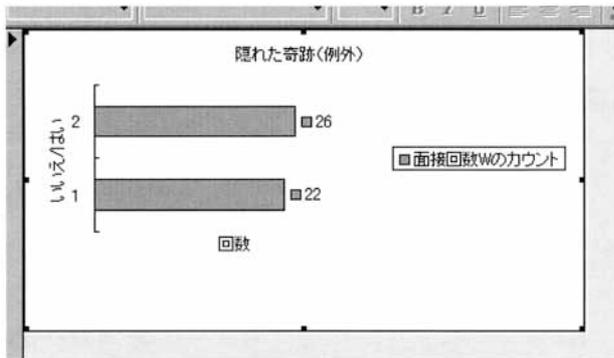


図14 技法Countの結果例 (例外)

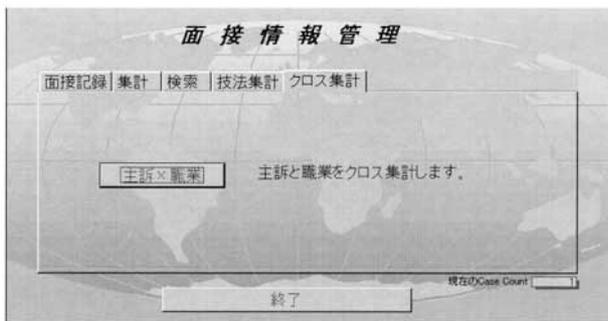


図15 事例データベースの面接情報管理画面 (クロス集計)

④-3 「技法集計」画面

図13の「技法集計」画面では事例情報の「技法」をもとに、各技法の使用状況が集計できる。図14のようなグラフ表示が可能である。

④-4 「クロス集計」画面

図15の「クロス集計」画面では、児童、教師、一般と主訴のクロス集計が行える。

以上が事例データベースの概要となる。

3. 事例データベースをもとにした研究の展望と今後の改善点

ここでは本事例データベースを用いた今後の研究の展望について述べたい。

まず、さまざまな集計の結果を用いた事例間での検討が可能である。面接の中でどのような技法が多く用いられ、かつ有効であったかの検討が行える。将来的には逐語録をもとに、どのような面接場面で、どのような技法を用いるのが有効であるか、また、主訴やNeedsによっても、どのような技法が有効かを検討したいと考えている。事例の蓄積により、より詳細な検討が可能と考える。

このような研究をもとに、よりクライアントにとって有益な解決志向アプローチの実践のあり方について模索したいと考える。さらに、面接過程の詳細な検討により、実証的に解決志向アプローチの有効性を検討したいと考える。

もっとも現時点では本事例データベースがこのような研究にすべて対応できているとは言えず、研究を行いつつ、その都度必要なバージョンアップを行うことが望ましいと考える。

今後、事例データベースを用いた更なる研究を行いたいと考える。

引用文献

(1) 亀口憲治 (1997) 現代家族への臨床的接近
ミネルヴァ書房 132-139.

(付記)

本事例データベースの問い合わせは下記まで。

〒790-8577

松山市文京町3番 愛媛大学教育学部 相模研究室

TEL: 089-927-9526 FAX: 089-927-9526

e-mail: sagami@dpc.ehime-u.ac.jp